

2025 年 5 月 23 日作成 Ver.5

《情報公開文書》

換気側の肺葉切除歴の左右差が 片肺換気中の酸素化に与える影響に関する検討

研究の概要

肺手術では手術する側の肺で空気のやり取りをしないために手術する反対側の肺を用いて呼吸を行います。そのため片方の肺でのみ呼吸を行うため体の血中の酸素濃度が低くなります。肺切除を受けた患者さんは術後の肺機能が低下しているといわれています。そのため、肺切除術を受けた患者さんの再発肺癌に対する手術の際、肺切除術を受けていない患者さんに比べて、体の血中の酸素濃度がより低くなり、麻酔管理に難渋することがあります。左肺がある場所には心臓があるため、左肺のほうが右肺に比べて小さいといわれています。そのため、これまで左肺のみで空気のやり取りをすることは体の血中の酸素濃度がより低くなるリスク因子とされています。左肺葉切除術をうけた患者さんで右肺の手術を受ける場合最も体の血中の酸素濃度がより低くなると考えています。肺切除術を受けられた患者さんで今回反対側の肺手術を行う患者さんで、過去にどちらの肺切除術をうけたかに注目して体の血中の酸素濃度を与える影響に着目した研究はこれまでにありません。

【目的】

肺切除術の既往を持つ肺癌患者さんの中で、反対側の手術を受けられた患者さんを対象に、過去にどちらの肺切除術をうけたかに注目して体の血中の酸素濃度の影響について検討します。

【意義】

過去にどちらの肺切除術をうけたかに注目して体の血中の酸素濃度の低下の予測因子であることが明らかになれば、肺の手術における体の血中の酸素濃度の低下のリスクの高い症例での術前対策に繋がります。より安全で手術の進行にも影響のない管理が可能となります。

【方法】

本研究は当院で行われたこれまでに肺葉切除術を受けた患者さんで、反対側の肺手術を受けた患者さんに関する既存情報を電子カルテシステムや手術室情報システムから収集します。収集したデータの統計解析を行い、術中低酸素血症の予測因子を推定します。

対象となる患者さん

2016 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日に長崎大学病院手術室で、これまでに肺葉切除術を受けた肺癌患者さんで新たに反対側の肺手術を受けた患者さん

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

・患者背景:

過去の肺癌の診断日や原発部位

併存疾患、喫煙歴

手術直前の最新のデータ:心機能、血液検査データ(Hb 値、血小板値、白血球値、CRP 値、アルブミン値、AST、ALT、血清クレアチニン値、アミラーゼ値、CK、KL-6)、動脈血液ガス検査、呼吸機能検査

手術当日:年齢、性別、身長、体重、BMI、ASA physical status、

・手術・術中因子:

予定手術部位、手術開始 30 分後までの経皮的動脈血酸素飽和度、動脈血酸素飽和度、動脈血酸素分圧

・術後経過:

術後入院期間、術後合併症イベント、術後 28 日後の術後経過

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は 2025 年 5 月 29 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。この研究で得られた情報などは今後、他の研究で用いる可能性や関連する研究を行うために他の研究機関に提供する可能性があります。この研究以外で情報を利用する場合は、改めて情報公開文書で提示させていただきます。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2026 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者

所属:長崎大学病院 麻酔科

氏名:西垣 明久

住所:長崎県 長崎市 坂本 1-7-1

電話:095(819)7370

情報の管理責任者

長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 麻酔科 西垣明久(研究責任者)

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話:095(819)7370 FAX 095(819)7373

【ご意見、苦情に関する相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く)

苦情相談窓口:医療相談室 095(819)7200

受付時間 :月～金 8:30～17:00(祝・祭日を除く)